

各 位

2025 年 11 月 12 日
株式会社リットーミュージック

90 年代 R&B のリアルを伝える厳選エッセイ集！
書籍『松尾潔のメロウな記憶』が 11 月 21 日に発売に



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『松尾潔のメロウな記憶』を、2025 年 11 月 21 日に発売します。

『松尾潔のメロウなライナーノーツ』（6 月刊）に続いて登場する本書には、主に 90 年代に執筆された雑誌の連載や特集記事、エッセイを厳選して収録。その時々の流行歌（R&B）について、チャート情報やアーティスト同士のつながり、プロデューサーや A&R の存在をもとに魅力の源泉を探っていく姿は、享乐的であると同時に求道的な厳しささえ感じさせます。

そして、前作同様さまざまなアーティストとの会見の様子が描かれているのも大きな特徴で、ジェイムズ・ブラウン、クインシー・ジョーンズ、スパイク・リーからジャネット・ジャクソン、ホイットニー・ヒューストン、マックスウェルといった面々と繰り広げられる若き松尾潔のやりとりには、ときにヒヤヒヤし、ときに深く頷き、ときに爆笑させられることでしょう。

巻末には、2000 年に実現した井上三太との「アトランタ美メロ紀行」も収録。スマホ登場以前の珍道中の楽しさが、どこかノスタルジックな魅力を湛えています。

はじめに――レコード屋の夜に思うこと

極みに傾んだ末にたどり着いた言葉をにじみ、閉店間際のレコードの列に並ぶ。

――やっぱ、買ふのやめようかな。

いったい今度も何回レコード屋で金を落とすというのだ。今日くらいは、せめてこの週末くらいは、手ぶらで店を出てみようと思いたる。でもそれはいいやない。今ならまだ間に合う。レコード屋まで引き返して音盤を完った場所に返し、寂しい顔で店を出る。思えば別にさうでもないのだ。

どうしようか。また間に合う。今なら。買わずに家路を急ぐ。誰かと初回な顔を待つような人に。遠慮していいところだ。はい、次の方どうぞ。と声がする。

ええい、まあよ、やっぱ買わうしかな。次はどこで会えるかわからない。この音盤を。

清水の音盤から降りる覚悟で、しゅくもんの平月札を渡す。そっと差し出す。加えて硬貨を数枚。なんだから泣いてしまふのだ。うれいのか、さういふのか、自分でもわからない。

けれど、1時間後、安いアパートの角部屋に帰ってきたのは、もはや一介の学生ではなかった。なにしろ自分は、音盤に付いた「つくし」の10分間の世界、の所有者である。

高校時代に聴いてたままになった世界史の授業、それでも記憶に残った数少ない「マトロン」とは、こんな気分の手を指していたのではない。大分寂しさを覚える。

レコードに針を落とす。その一面の音盤を、いまも鮮やかに覚えている。空気がわずかに震え、やがて音が小さな部屋を満たす。その立ち上がりには、前にも似た音があつた。ぼくにとつて音楽とは、ただ静けさでもなく、心の奥に降りかかる時間の闇を照らす行為だつた。

その「聴く」という行為に留まっていたつまいふ感覚が、少しずつ壊れていったのはいつの頃だろう。プロデュースという行為に関わるようになり、さらに時間が流れて、音楽はデータとなり、祖先の魂作ひとつで世界に届くようになった。便利さは確かに人を自由にした。けれどその自由のなかで、音の物語はどこまで失われていったか。

それでも、かつて聴きこんだ音盤は、旋律は、音は、消えはしない。心の底に沈んだかに思えた音楽の記憶は、ある日不意に息を吹き返す。それは失われたのではなく、静かに眠っていたのだ。

原点をたどれば――アメリカの黒人音楽家たちから始まった若き日の旅に引き寄せ、まだインターネットが普及していなかった時代、現地で聴いた声やリズムを日本に持ち帰る音楽家は、数多くあり、同時に再考でもあった。音楽を語ることは、自分の記憶を語り出すことでもある。本書に収めた文章はすべて、その記憶の断片から生まれたものだ。メロウは記憶のなかにある。

ペーシをのめるたび、あなたのなかに、かつて出た記憶が蘇るかもしれない。たとえ、遠い夜のラジオの音のつらさのように、あるいは、誰かの言葉にまでくみこまれる、懐かしい音のよう、に。ぼくがこの本で手書したいのは、そうした「聴きこんだ記憶」である。それは時代のノイズを越えて、静かに息づく、人の証しなのだ。そして、あなたの胸の奥で小さく鳴りつづけることを願っている。

1992年型最新プリンスを追え！

（2016年追記）

ライターの近況をたずねてプロデューサー業に身を転じてから、ずいぶん長い時間が経つ。24歳で書いた原稿を今でも24年後のいま読みかえすと、若さの印象はどれも変わらない。どうもかたじけなく。

この取材は、地元ミネアポリスの本店を訪問して、マイアミ、L.A.にプリンスが展開したクラブ「グラムラム」の日本（横浜）進出にあたり、広報活動の一環として依頼されたものだ。初めての海外取材にして写真も自分で撮らなくてはならなかったが、まさかのライブラリーにも立ち会えて大満足。最後の夜は必ずしも予定通りでなかった。これにやめるで吹雪で飛行機に乗れず、ライブに穴を開けてず・タイムを解雇されたジャム&ミクスと同じだよ……なんて茶色の自問に陥つたのも懐かしい。

取材から5年後の1997年、プリンスはグラムラム本店を手放す。買収したのは文中に登場するザ・バット・ディザスター。プリンスのマネージャーやバイスリーパー・スタグも社長の側には「ザ・バット・ディザスター」と改名して再オープンした同店は、高級クラブ・レストランとして人気を博したが、火事が原因で営業を終えた。プリンスが亡くなるより10年前、2006年のことである。

プリンスのお気に入りだったグラムラムも長くは続かなかった。だが同店で打れたシクレット・ライヴの一部は、DVD「Diamond and the Si Circle」で観ることが出来る。

ぼくが出版依頼を「贈った」映画は、劇場未公開ながらビデオスルーで1994年に目の目を見る。『The Love Generation』なる作品は、アルバム『The Love Generation』収録曲のクリップ集の色合いが強い。終盤には、日本人ビジネスマンたちと談話室に入ったプリンスが契約書に署名するシーンが、懐かしくあつた。

（1）親たぞ、リハーサル!! 律儀な「偉大なる短髪」像

現地ミネアポリス潜入記。殿下の秘密はつかめたか？

「田舎だからほかにやることがないのよ。平和なもの。TVのニュースじゃ、『今日どこどこがボサの収穫が行われた』みたいなやつで、ピストル殺人なんかあったら連中大騒ぎしてるし……あーあ、わたしは住みたくないわ」

ミネアポリスに対するぼくのイメージは、このコメントによってほぼ決まっていた。かつて、音楽の王はシエラ・ブッシュと知れたクワイ・レコードの歌姫である。元々タイのシエラ・ブッシュとタイ・ルイスの結婚っ子シンガーとしてデビューした彼女は、80年代後半のレコーディングキャリアをずっとミネアポリスで過ごした。故郷のデトロイトではまだプレイバックのボブ（Bob）と名乗るメンバーと交際を持ち、現在



■書誌情報

書名：松尾潔のメロウな記憶

著者：松尾潔

定価：2,750 円（本体 2,500 円＋税 10%）

発売：2025 年 11 月 21 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3125317103/>

CONTENTS

第1章 メロウな日々（赤メロウ）

旅立つまえに

ルーサー！ ルーサー！ ルーサー！ Luther Vandross 「Never Too Much」

痛みという武器 Mary J. Blige 「Real Love」

止まった時計～新しきクラシック Maxwell 「Ascension (Don't Ever Wonder)」

特別な日～たかが10年、されど10年 D'Angelo 「Brown Sugar」

はじめから見えていた景色 Keith Sweat 「Right And A Wrong Way」

これだからやめらんないぜ Keith Sweat 「Nobody」

愛とよぶもの Babyface 「Where Will You Go」

喜びも悲しみも幾年月 Maze Featuring Frankie Beverly 「Joy And Pain」

変わりゆく、変わらないもの Maze Featuring Frankie Beverly 「Can't Stop The Love」

至上のもの James Brown 「Can't Get Any Harder」

趣味を仕事にするということ Quincy Jones 「Slow Jams」

第2章 メロウな季節（青メロウ）

ノスタルジア Johnny Gill 「My, My, My」

「アメリカの恋人」の恋人 Bobby Brown「My Prerogative」
われらの時代 Guy「Goodbye Love」
読み捨てられる新聞紙のように Mariah Carey「Honey」
妹よ Janet Jackson「That's The Way Love Goes」
ブラッドライン Gerald Levert「Baby Hold On To Me」
ブルックリンでスパイク・リーに怒られる

第3章 メロウな記憶——原風景

90sボーカルグループの新たなサウンド&ダンス
ディヴァンテ・スウィング／ジョデシイ登場
いま、男性ボーカルが熱い！か？
Souls from Chocolate Pop City 美メロ都市ロンドン考
1992年型最新プリンスを追え！

第4章 アトランタよ！

アトランタの挑戦
アトランタ美メロ紀行

PROFILE

松尾 潔（まつお・きよし）

1968 年、福岡市生まれ。音楽プロデューサー・作家。早稲田大学在学中より R&B ジャーナリストとして活動。「ニュージャックスウィング」をいち早く日本に紹介。豊富な海外取材をベースとした執筆活動やメディア出演を重ね、20 代にしてアメリカの業界誌『BLACK RADIO EXCLUSIVE』に「日本の R&B 市場に最も影響力をもつ人物」と紹介される。

久保田利伸との交流をきっかけに 90 年代半ばから音楽制作に携わり、SPEED、MISIA、宇多田ヒカルのデビューにブレーンとして参加。その後プロデューサー、ソングライターとして平井堅、CHEMISTRY、東方神起、SMAP、JUJU 等に提供した楽曲の累計セールスは 3000 万枚を越す。EXILE「Ti Amo」(作詞・作曲)で日本レコード大賞、天童よしみ「帰郷」で日本作詩大賞、JUJU『DELICIOUS 2』(アルバムプロデュース)で日本ゴールドディスク大賞〈ジャズ・アルバム・オブ・ザ・イヤー〉を受賞するなど、ヒット曲・受賞歴多数。著書に小説『永遠の仮眠』(新潮社)、社会時評集『おれの歌を止めるな』(講談社)など。

2010 年にスタートした NHK-FM の R&B プログラム「松尾潔のメロウな夜」(DJ・選曲・構成)は、2024 年に惜しまれつつ放送終了。本書を含む新「メロウ」シリーズは同番組終了後初めての音楽本となる。

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』や T シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリ

ューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp